M・O・H な人
大津市編

「うん、うん、そうね、あはは」この笑顔に救われる

障がいをもつ子どもの未来のために

大和（やまと） 幸子（さちこ）
株式会社わくわく共育ステーション　代表取締役

会社勤めをしていた大和幸子さんはあるきっかけから、放課後に障がいのある子どもたちを支援する「放課後等デイサービス」（9ページ※参照）の会社を独力で立ち上げて運営しています。従来の訓練や教育とはまったく違う発想の大和さんと発達障害の子どもたちとの賑やかな毎日についてうかがいました。

■放課後等デイサービスなないろ（大津市大平）
■2015年10月5日

明日の家族とのお出かけ
晴れますように♪

発達障害の子どもたち

何気なく住宅の角を曲がった瞬間、あっと声をあげそうになった。家が建てこむ大津市の住宅街の中で突然目の前に、みずみずしい緑に囲まれた小さな坂道が現れたのだ。この坂の上、大きな木々が枝を伸ばす心地良い高台に「放課後等デイサービスなないろ」がある。

「なないろ」は今年5月に開設され、現在は毎日7、8人の子どもたちが放課後に思い思いに好きなことをして過ごしている。

「室内でプラレールを出して遊んだり絵を描いたり、最近は外遊びもだいぶするようになって、鬼ごっこしたりかくれんぼしたり栗拾いしたり、夏は園庭にプールを作って遊んだり。大きい子と小さい子を分けずに一緒にしていることが良いようで、みんなで遊んでくれるようになりました」と、「なないろ」を運営する大和幸子さんはとても嬉しそうに話してくれた。

発達障害の子どもたちはそれぞれに人と関わることにむずかしさを抱えているため、他者と一緒にいるだけでも恐怖や不安、ストレスを感じて気持ちが不安定になってしまうことがある。ここに通い始めた当初は、人に触られるだけでパニックになる子、視線が定まらず声をかけられても反応しない子、人のものを横から取ってしまう子、暴言を吐き続ける子、暴れる子もいた。

「ところが、この半年でスタッフの私たちやおうちの方、そして学校の先生がびっくりするほど子どもたちが劇的に変わったんですよ」

何も見ていないかのようだった子は、カメラを向けるとカメラ目線で笑顔を見せるようになった。触られると恐怖でパニックを起こしていた子は、今ではギャグを言って先生に触らせて盛りあがったり、自分から他の子に近づいていったり。今まで一度も宿題をしたことがなかった中学生は自主的

園庭でバドミントン。後方にはネコのバス

に夏休みの宿題を2日で終わらせ、それ以降は他の子を諭すことまであるという。何をしたら、子どもたちがそこまで変わるのだろう?

「全然、何も教えていないんです。教えるということをしないと決めているので」

自分のあり方次第で子どもは変わっていく

大和さんは今年コミュニケーションの講座に通い始めた。その中で、話さなくても伝わること、そして人を変えようとして意図的に人を操作しようとする関わり方ではなく、自分のあり方がいかに大切であるかを学んだ。

例えば暴れ回る子どもの場合、その子が怖いと話すスタッフには、怖いとか嫌いという感情は人として仕方がないこと、気持ちをねじ伏せようとせずに接すればいいとアドバイスした。すると、その子どもには何も言っていないのに、次の日から自然に静かになった。

「スタッフに『嫌なら嫌でいい』と言っただけなんです。特に障がいのあるお子さんは敏感なので、キャッチする力が強いと言われていますから」

宿題をしなくてはいけないと口で言うのは簡単だ。しかし、わかっていてもできない子どもに話してきかせるのはあまり意味がない。

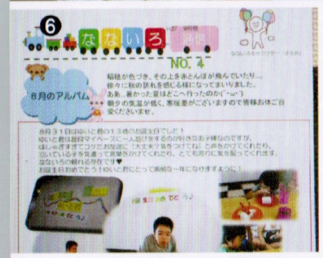
「この子たちを訓練しようということは全然ないんですよ。訓練として同じことを繰り返し繰り返しやると子どもにストレスがかかるし、私たちも思い通りにいかないストレスを感じる。そうしたストレスがまったくない状態で、子どもたちが自然に自主的に変わっていくような環境をつくりたいんです。一度うまく機能し始めると、良い方にどんどん進むんですよ。例えば、どう関わると宿題をすることが必要だとその子が思ってくれるのかなどいつも模索しています」

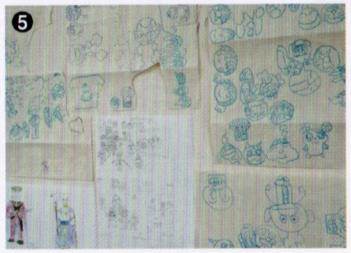
きっかけは職場での体験

大和さんが放課後等デイサービス運営のための会社を起業したきっかけは、10年間勤めていた住宅メーカーでうまく社会生活に適応できず、苦しんだ末に仕事を辞める社員と接してきた経験にある。その中の何人かは発達障害ではないかと後から思った。

「ほめられると必要以上に喜び、怒られると必要以上に落ちこんで、その振れ幅の大きさで自分が壊れていく。人間関係にうまく対処できたら、能力を発揮して働くことができるのに…。大人になってからではむずかしいけれど、これから社会に出ていく子どもたちのために何かできるかもしれないと思ったんです」

2013年に勤務先の都合で退職することになった大和さんは、かねてから気になっていた発達障害の子どもたちのために放課後等デイサービス事業を始めようと決意した。しかしマニュアルもアドバイスしてくれる人もなく、認可のために法人格をとることや、役所にどの書類を提出しなくてはいけないのかなど、わからないことだらけ。現在も子どもたちにどう接していくのかなど、何もかもが手探りだ。目標に向かって突っ走り、決意してから2年で事業を始めた経緯を穏やかな笑顔で話す大和さんには、まだまだやりたいことがいっぱいあるようだ。





❶お買い物形式のおやつタイム ❷一目でわかる ❸「キャー! 恥ずかしい!」「よしよし（笑）」❹やっぱり一緒が楽しいね ❺にぎやかに彩る、みんなの絵 ❻通信で保護者とコミュニケーション

スタッフもそれぞれの個性を生かし笑顔いっぱい

ボリューム満点の
手づくりメニューの数々

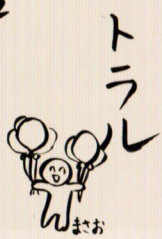
今年の夏休みから長期休暇と学校が休みの土曜日に、学校の給食費と同じ1食250円で給食の提供を開始した。好き嫌いが多い子どもたちにも喜ばれる、価格以上の美味しさがあるメニューに知恵を絞り、調理も大和さん自らが行い、腱鞘炎になったことも。考えてから走るのではなく、走り出してから考えるタイプと自らを評する。

「なないろは発達障害が専門ではないですし、将来は障がいのことをもっと社会に認識してもらえるような活動をしたいです。その第一歩として、今年11月からインターネットラジオの30分番組でパーソナリティーをすることになりました。障がいをもつお子さんのお母さんにも参加してもらえるような番組にしたいです。なないろも、子どもたちがいない時間帯は、障がいをもつ子どものお母さん同士が交流できるカフェにしようと思っています」

未知の世界に飛び込んだ大和さんが、福祉業界にはなかった新しい感性で新しい障がい者福祉のあり方を私たちにみせてくれる日も近いかもしれない。

※放課後等デイサービスとは、障がいのある小学校1年生から高校3年生までを対象とする、放課後や長期休暇中の見守りと支援のサービス。利用者が費用の1割を負担し、残りは国や自治体から支出される。

ニュートラル
大和幸子



●やまと さちこ＝住宅メーカー勤務中、少し個性の強い人達が職場で孤立していく姿を見て発達障害という言葉を知る。退職後2015年5月大津市で〝なないろ〟を開設。障がいのある子どもたちを社会に送りだすことを意図として、コミュニケーションを通したコーチングを取り入れている。

○株式会社わくわく共育ステーション
滋賀県大津市大平2-4-30
TEL：077-509-9077
http://www.wkwk-nanairo.com/